

# IPv6 Site-Multihoming Workshop

## Introduction

NEC Corporation of America

Koichiro Fujimoto

# Scope of Workshop

- IPv6 Site-Multihomingのあり方を議論
  - IETFが決めたスペックを理解した上で、
  - 運用やビジネス的な観点を盛り込んで、
  - 将来の運用技術、方針について考える
- Routing systemにフォーカス
  - IPv4で出来たこと、IPv6で出来ないこと
  - 技術の問題、ポリシーの問題
  - など

# Backgrounds

- IPv4 Site-Multihoming
  - CIDRでアグリゲートされるとの仮説の上に成立
  - 経路はGlobal Tableにアナウンスされている
  - 冗長性、負荷分散等を実現
- IPv6 Site-Multihoming
  - IPv6は膨大なアドレスだが基本はIPv4と同じ
  - IPv6では経路のアグリゲートでスケラブルに！
  - でも、IPv4で実現していた冗長性、負荷分散が犠牲になるのでは？

ではスタートお！